

会議録（案）

会議の名称	令和6年度 第2回西東京市文化芸術振興推進委員会
開催日時	令和6年10月7日（月） 午後5時から午後6時50分
開催場所	インゲビル第4会議室
出席者	委員：（対面）新藤委員長、濱崎副委員長、笠原委員、宮内委員、遠野委員、森委員、亀田委員 （オンライン）中山委員 （欠席）青木委員、中野委員 事務局：文化振興課渡邊課長、文化振興課文化振興係山本係長、文化振興課文化振興係樋代主査、文化振興課文化振興係神田主事
議題	1 「令和6年度施策・事業評価（令和5年度分）」調査結果について 2 その他
会議資料の名称	資料1 西東京市第2期文化芸術振興計画「令和6年度施策・事業評価（令和5年度分）」調査表に関する文化芸術振興推進委員会からの課題①に対する総合評価コメント（案） 資料2 3点の課題解決に向けた重点項目の考え方 資料3 【課題②抜粋版】西東京市第2期文化芸術振興計画「令和6年度施策・事業評価（令和5年度）」調査表
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>【以下、新藤委員長にて議事進行】</p> <p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインによる参加も可能としていることを説明。 ・事務局にて「第1回文化芸術振興推進委員会会議録（案）」を作成し提示。委員より異論がなかったため、正式な会議録することで全会一致。 ・第1回文化芸術振興推進委員会において、「【課題①抜粋版】西東京市第2期文化芸術振興計画「令和6年度施策・事業評価（令和5年度）」調査表」における各所管課からの回答内容等について、幾つかの確認事項が出ていたため、確認事項について事務局より回答。 ・事務局にて、資料1を用いて第2期文化芸術振興計画にある文化芸術振興への課題のうち、課題①「市民に身近な鑑賞機会のあり方」に対する総合評価コメント（案）について説明。委員より異論がなかったため、課題①に対する総合評価コメントとすることで全会一致。 <p>2 【議題1】「令和6年度施策・事業評価（令和5年度分）」調査結果について</p>	

・事務局にて、資料2及び資料3を用いて「令和6年度施策・事業評価(令和5年度分)」調査結果の評価方法について説明。

○委員長

・資料2及び資料3に基づき、本日の委員会では、第2期文化芸術振興計画にある文化芸術振興への課題のうち、「②文化芸術活動の担い手を広げる取組の推進」への取組状況に対する総合評価に向けて、委員より意見をいただくこととする。

【基本方針3 施策1「自立的な文化芸術活動の推進」について】

○委員長：

・基本方針3 施策1「自立的な文化芸術活動の推進」について、委員より意見をいただきたい。

○副委員長：

・取組番号【3-1-2】「国や東京都等の助成制度の情報提供」のうち、高齢者支援課の主な実績について、B評価なのはなぜか。令和5年度に関しては文化芸術に関する情報がなかったためB評価にしていると思われるが、情報提供を行うことが可能な体制を構築しており、関係団体等に適宜情報提供は可能なため、情報の有無に関わらず、A評価としても良いのではないか。情報提供をすることは重要だと考えるが、情報提供できる体制を構築すること等も必要ではないか。

○委員長：

・情報提供することが全てではなく、その過程も必要である。また、国や東京都の助成制度等の情報をどこまで周知したか、詳細に記載できると良いのではないか。

○委員：

取組番号【3-1-2】「国や東京都等の助成制度の情報提供」のうち、協働コミュニティ課の主な実績にあるように、活動団体等だけに情報提供するのではなく、ホームページや窓口等を通じて広く情報提供することが大切ではないか。

○委員長：

・支援を求めている団体等に、いかに情報を結びつけることができるかが重要ではないか。

○委員長：

・【3-1-3】「保谷こもれびホール事業」のうち、文化振興課の主な実績について、記載されている2つの事業が令和4年度に比べて両事業とも事業数も参加数も減少している。何か原因等はあるのか。

○事務局：

・保谷こもれびホールについては、令和5年9月から令和6年4月まで改修工事によりメインホールや小ホールを休館していた時期があるため、令和4年度に比べ、事業数や参加人数が減少した。

○委員長：

・【3-1-1】「市民または活動団体による事業展開の調査研究」のうち、協働コミュニティ課の今後の展開について、現時点で市と関わりのない活動団体の事業情報取得のため、各拠点のPRをより進めると記載があるが、各拠点のPRを進めることが市民又は活

動団体による事業展開の調査研究にどのように影響するのか。

○事務局：

- ・協働コミュニティ課では、男女平等推進センターやゆめこらぼの拠点があるが、市と関わりのない活動団体等はその拠点を認識していないことから、その活動団体等へ拠点をPRすることにより、市で把握していない活動団体等と市がつながり、事業情報を取得できることにつながるという趣旨であると考え。

○委員：

- ・【3-1-5】「活動団体の自主企画や運営についてアドバイス」のうち、障害福祉課の評価の理由について、専門的なアドバイスを行ったと記載があるが、具体的にどのようなアドバイスを行い、どのような効果があったのか。

○事務局：

- ・所管課に確認する。

【基本方針3 施策3「文化芸術を支える人材の育成と活用」について】

○委員長：

- ・基本方針3 施策3「文化芸術を支える人材の育成と活用」について、委員より意見をいただきたい。

○委員：

- ・【3-3-2】「文化ボランティアの活用」のうち、文化振興課の主な実績について、「対話による美術鑑賞」事業のボランティアの参加者数が延べ241人と多い印象である。どのような活動内容なのか。

○事務局：

- ・「対話による美術鑑賞」事業については、市内の小学校4年生を対象にした小学校における事業と市内のイベント等を活用した地域活動を行っている。小学校における事業については令和5年度に10校実施しており、地域活動は3回実施した。参加した市民ボランティアが延べ241人であった。

○委員：

- ・【3-3-1】「文化ボランティアの育成」のうち、文化振興課の評価の理由について、「障がい者」と記載されており、調査表内で漢字表記とひらがな表記がある。漢字とひらがなの使い分けや考え方はあるのか。

○事務局：

- ・身体障害者福祉法等の規定に基づき庁内では漢字表記で統一しているが、指定管理者の自主事業等でひらがな表記しているものもある。

○委員：

- ・【3-3-2】「文化ボランティアの活用」のうち、社会教育課の主な実績について、事業実施までの経緯を教えてください。

○委員：

- ・市民から下野谷遺跡や文化財に関わるボランティアに参加したいと要望があり、養成講座を行い、語り部としてイベントでの解説を行うボランティアを育成し、活用した。また、下野谷遺跡は雑草が多いことから、ボランティアを募り、除草イベントを

実施した。将来的にはボランティアの活躍の場を広げたいと考えており、その検討も行っているところである。

【基本方針3 施策4「多様な文化芸術の担い手を広げる取組の推進」について】

○委員長：

- ・基本方針3 施策4「多様な文化芸術の担い手を広げる取組の推進」について、委員より意見をいただきたい。

○委員長：

- ・【3-4-1】「文化芸術を活用した地域の活性化」のうち、文化振興課の主な実績について、市民文化祭に関する詳細を伺いたい。

○副委員長：

- ・令和5年度の市民文化祭については、主たる会場である保谷こもれびホールが改修工事による休館で使用できず、武蔵野大学や文華女子高等学校等を代替会場として使用して開催した。これまで開催をしていなかった地域で開催ができたということは、その地域の方や各学校の生徒の方にも、市民文化祭に触れていただく機会につながるとともに、新たな広がりを生むことにつながったと考えている。

○委員：

- ・【3-4-1】「文化芸術を活用した地域の活性化」のうち、協働コミュニティ課の主な実績について、文化芸術振興課が所管する記載と思われるが、文化振興課の実績ではないのか。

○事務局：

- ・協働コミュニティ課では、市民活動団体と市が協働で、地域の課題解決と市民サービスの向上に向けて行う補助事業「NPO法人企画提案事業」を実施している。西東京市文化芸術振興会をはじめとする団体より申請があり、採択した団体と市で協働で事業を実施している。そのことから協働コミュニティ課にて実績を記載している。

【基本方針5 施策3「多様な担い手の連携によるまちづくりへの促進」について】

○委員長：

- ・基本方針5 施策3「多様な担い手の連携によるまちづくりへの促進」について、委員より意見をいただきたい。

○委員：

- ・【5-3-2】「市内大学等との連携の充実」のうち、障害福祉課の主な実績について、市内大学等と記載あるが、連携した具体的な大学はどこか。

○事務局：

- ・所管課に確認する。

○委員：

- ・【5-3-3】「教育機関とのイベントの連携」のうち、文化振興課の主な実績について、市民文化祭の記載があるが、高校生ボランティアの参加があったが、教育機関との連携において対象にはならないのか。

○事務局：

・高校生ボランティアの参加についても対象となるため、主な実績に追加する。

○委員：

・【5-3-2】「市内大学等との連携の充実」及び【5-3-3】「教育機関とのイベントの連携」のうち、企画政策課の記載が同じになっている。取組の内容や概要が違うため、主な実績が同じでも評価の理由や今後の展開は異なる記載になるのではないか。

○事務局：

・所管課に確認する。

○委員：

・【5-3-2】「市内大学等との連携の充実」について、市内大学との連携事業について、各課が実施した連携事業を記載しているが、取組による効果である地域への愛着、地域の活性化への成果が記載されていない。多様な担い手の連携によるまちづくりの促進のため何を指すのか記載することが必要ではないか。

○委員長：

・連携によりもたらされた変化等を記載することが必要ではないか。

○委員：

・【5-3-4】「市内事業者等との連携の充実」のうち、産業振興課の今後の展開について、商店街の売り上げについての記載があるが、市内事業者等との連携の充実により生まれるのは、文化芸術に関することではないのか。

○委員長：

・経済活性化も重要であり、文化芸術振興も重要である。その両立を検討し、記載できると良いのではないか。

○委員：

・【5-3-3】「教育機関とのイベントの連携」のうち、スポーツ振興課の主な実績について、MUGF PARKの記載がある。スポーツ振興課に限らず、市でも更なる活用ができると良いのではないか。

【基本方針1 施策4「市民に届く効果的な文化情報の提供」について】

○委員長：

・基本方針1 施策4「市民に届く効果的な文化情報の提供」について、委員より意見をいただきたい。

○委員長：

・【1-4-4】「その他情報提供について検討」のうち、文化振興課の主な実績について、「ひばりタイムス」を活用したと記載があるが、「ひばりタイムス」とはどういったものか。

○事務局：

・「ひばりタイムス」とは、西東京市や近隣で起きた出来事、市民の活動を伝える地域報道サイトである。市民自身が記者となり、地域の出来事を発信している。

○委員長：

・ドイツのハンブルクで見かけたが、街中の柱が広告塔となっており、ポスターがたく

さん貼られていたり、稀に電光掲示板もあった。市民の目に届くところに設置されている。次々に情報が入れ替わるため、情報量も多い。市でも多くの情報が市民の目に届くような広告塔があると良いのではないかな。

○委員：

・広報の手法については、それぞれ役割があり、現在は各所管課がそれぞれの手法を用いて個々に広報しているが、市全体で情報を統一できると市全体の活動が見えてくるのではないかな。

○委員：

・市の広報について、市全体で広報についての決まりがあるのか。

○事務局：

・市全体の広報について、一元管理は行っていない。各所管課が効果的な広報の手法を検討し、それぞれが実施している。

○委員長：

・例えば、長期的には文化芸術ポータルサイトを整備する等、市ホームページにおける文化芸術関連情報を充実させ、文化芸術に関する多様な情報をさらに効果的に届けるための仕組みづくりが必要ではないかな。

○委員：

・各所管課が様々な工夫を講じて情報発信をしているが、情報量が多すぎると見づらくなってしまいうこともある。現在は、二次元コードの活用が進んでいることもあり、詳細については、二次元コードを確認するよう統一することで効率的な広報につながるのではないかな。

○委員：

・各所管課の評価の理由について、多くが「情報提供ができた」と記載されているが、情報提供をどれほど効率よくできたか等が評価につながると考えている。そうした視点も記載していただきたい。

○委員長：

・情報提供に関する指標等はあるのか。どのような形式で行うと効果的なのか。

○委員：

・以前、サービスに関する広報をした際は、電話等でサービスの加入がどれほどあったか等を見るようにした。しかしながら、イベント等については指標を持つのは難しいと考える。企業や自治体によっては、人流解析を採用しているところもあるため、人流解析が取り入れられるのであれば、広報の効果解析に役立つのではないかな。

○委員長：

・より効果的な情報発信ができるよう検討を進めていくべきである。

3 【議題2】その他について

・副実行委員長より、第23回西東京市民文化祭について周知。

・委員より、したのや縄文の里秋まつり及び保谷のアイについて周知。

・事務局にて、第3回文化芸術振興推進委員会の日程（令和6年10月22日）及び内容（「令和6年度施策・事業評価(令和5年度分)」調査結果を踏まえた第2期文化芸術振

興計画の評価（課題③）について説明。

4 閉会

以上